



## 北斗句会

二月定例会（三日 メール句会）

兼題 「寒」「魚」

五十音順

特選は特選 石田きよし選

さあ喰へと居直りたるや寒の鯛

大崎石州

河豚刺しや白身に透ける皿模様

太田黒幸風

日は西に寒林すでに燃え始む

大森康政

特選 豆撒ぎや心のうちもそとへ投げ

竹内雲泉

自転車に積む子走る子母の春

田中資凡

特選 皮をむく泥ねぎ楚々と臍たけて

長池豆陽

節分や新ウィルス鬼退治せむ

深見十万

特選 コロナ世の闇に一擲鬼は外

藤田紀潮

けふもまた歩みつつ観む残り鴨

宮下ひかる

父の忌にひとり経読む寒さかな

森田光彦

風花の土手をまつすぐ子ら走る

山縣秀雄

立春や古傷の膝曲げ伸ばし

吉岡誠山



白鳥の矜時に犬の後退り

石田きよし